第1577号（昭和57年７月８日第三種郵便物認可）
2018年（平成30年）６月12日㈫
週刊 エクステリア
EXTERIOR weekly.
発行所
株式会社 協報
発行人 金井徹
〒556-0016 大阪市浪速区元町3-10-4(晋陽ビル)
TEL 06-6631-8892 FAX 06-6631-8891
E-mail info@exterior.co.jp
東京 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町13
TEL 03-5295-0801 FAX 03-5295-0802
E-mail kyoho@jade.dti.ne.jp
URL http://www.exterior.co.jp/
発行日 毎週火曜日(但し第5週火曜日は休刊)
購読料 年間 23,000円(税別・前納)

都道府県別一戸建新設着工分析①〔増加ランキング〕

熊本県26.7%増で断トツ

増加18道県、鳥取も２ケタ増

平成29年度の専用住宅一戸建ての新設着工戸数は42万2452戸で対前年度比1・7%減であった。都道府県別の増減では対前年度比増加の18道県を表に示した。表は上から増加率の高い順とし、その増加実数を表記、ランクも示した。また、一戸建てに集合住宅系も含めた総数も併記、総数における増減率と、一戸建て比率も示した。

前年度比増による傾向は、地震復興の熊本県を例外とすると九州エリア、中国エリアでの伸長が目立った。総じて関東、近畿、中部の大都市圏はふるわなかった。

復興景気を示す熊本県が増加率、実数とも群を抜いて一位を示した。熊本県は一戸建て増加数が26・7%増と高い上昇を見せた（総数でも23・4%増でトップ）。九州エリア全体では表のように福岡を始め大分を除く6県が一戸建てで前年度を上回っている。

都道府県別専用一戸建て新設着工数増加率ランキング

	県名	増加率(%)	一戸建て数	増加実数	ランク	総数	増減(%)	一戸建比率(%)
1	熊本	26.7	9,319	1,961	1	16,411	23.4	56.8
2	鳥取	13.9	1,730	211	5	2,943	4.3	58.8
3	山口	5.7	4,306	232	4	7,878	△5.2	54.7
4	沖縄	5.6	3,034	160	6	16,985	3.0	17.9
5	島根	5.3	1,806	91	11	3,328	△0.2	54.3
6	香川	4.3	3,536	145	8	6,946	2.3	50.9
7	青森	3.5	4,306	145	8	6,454	△0.9	66.7
8	北海道	3.1	13,845	418	3	37,062	△1.2	37.4
9	福岡	2.9	14,735	422	2	41,538	△3.4	35.5
10	栃木	1.8	8,881	159	7	13,380	△8.4	66.4
11	広島	1.0	8,540	88	10	21,070	15.4	40.5
12	群馬	0.9	9,028	80	12	14,143	2.6	63.8
13	宮崎	0.7	3,949	27	15	6,936	△4.2	56.9
14	長崎	0.7	3,338	23	16	7,397	1.8	45.1
15	岐阜	0.6	7,132	46	14	11,355	7.9	68.1
16	千葉	0.3	23,654	80	12	51,413	2.3	46.0
17	佐賀	0.3	2,769	8	17	5,374	△3.0	51.5
18	鹿児島	0.0	5,603	2	18	10,049	△8.9	55.8

一戸建比率にも注目

着工数の増減は一戸建てと総数（集合住宅等を含めた）では必ずしも一致しないことが表を見ても解る。18道県の内、総数では半分の9道県が前年度減となっている。逆に地方にいくほど、一戸建て比率が高いことも見てとれる。今回の分析では、新設における一戸建て比率を掲載した。一戸建て比率の高い県では順に岐阜、青森、栃木、群馬、鳥取、宮崎、熊本、宮崎、鹿児島、山口がベスト10。逆に一戸建て比率の低いのは沖縄、福岡、北海道、広島、長崎

となっており、沖縄の17・9%というのは驚きだ。集合住宅系が8割以上を占めていることになる。

総数の推移は、土地価格、人口、民力、景気等が絡んでいよう。総じて一戸建て比率の低い県が低調でマンション等の集合住宅が停滞したといえるが、29年度は同じエリア内でのバラツキが見られた。

一時は好調であった東北では宮城、福島での勢いが止まった他、大票田の東京も減少傾向。一戸建て及び、総数の順位は3面を参照されたい。

続新市場創造記

雪中松白為健全
機を見て盛を創る

⑳

造園の言葉が定着し始めたのは大正の始めと書いた。それまでは「作庭」とか「庭造」とよんでいたらしい。造園となった確かな理由は知らないが、多分、公共的意味合いを強くしたかったからではなかろうか。庭と園の違いだが何となく園の方が公共的で広さを感じさせる。公園、植物園、動物園、遊園地等の〝園〟は間違いなく公共的意味合いを含む。

外にある公的な一定のエリアに園を付けた〝造園〟にすることで庭を作る行為、庭を作る人達はより社会的認知を受けたといえる。ただ、現在では、造園、造園家といった言葉はある一定の高いレベルのイメージを導き出し、一般の人達から離れ過ぎてしまっている。ともすれば芸術的な至高の世界、庶民には届かない高尚な世界を感じさせてしまう。その理由は、歴史と精神性であろう。

〝エクステリア〟の概念⑩

原点を辿れば1400年以上の歴史を持つ造園世界、浄土思想、枯山水（禅）、茶庭、大名庭園と時代によって庭のありかた は変わってきているものの今日まで庭そのものの持つ価値は、為政者、宗教という両者に共通した驚嘆性にあった。

一方、ガーデン、ガーデニングという言葉は、外来語でありながら造園との類似性が認められる。言葉の響きから当然、前者は和、後者は洋をイメージする。前者は草花より樹木、後者は園芸（草花）のイメージが強く、また前者はプロ指向、後者は一般参加型というイメージが強い。ただ、造園とガーデニングは基本的には同じ行為を指すと理解したい。何でも取り入れ、それを自分達の物にしていく国民性がもたらす混乱があるものの、それはそれでイメージの多様化だととらえればいいのかも知れない。重要なことはその違い、あるいは同じであることをそれらに位置する人達が的確に伝えて行くということ。不可解なまま残すことにプラスはない。